

イタセンパラの生活

イタセンパラは国の天然記念物のコイ科の淡水魚で、富山県内では氷見市にし
か知られていません。秋は産卵シーズンです。イタセンパラの生活の様子を見て
みましょう。

● 名前の由来

イタセンパラは、漢字で書くと、「板・鮮・腹」です。板のような平たい体型
で、産卵期に鮮やかな繁殖期の色（婚姻色と呼びます）の腹になることに由来
しています。濃尾平野での地方名が標準和名になりました。

● イタセンパラのすみ場所

富山県、大阪淀川水系、濃尾平野の緩やかな流れの川に生息しています。県
内では昔は、放生津潟周辺や富山市で生息記録がありますが、現在は氷見市の万
尾川、仏生寺川などのごく限られた場所にしかすんでいません。

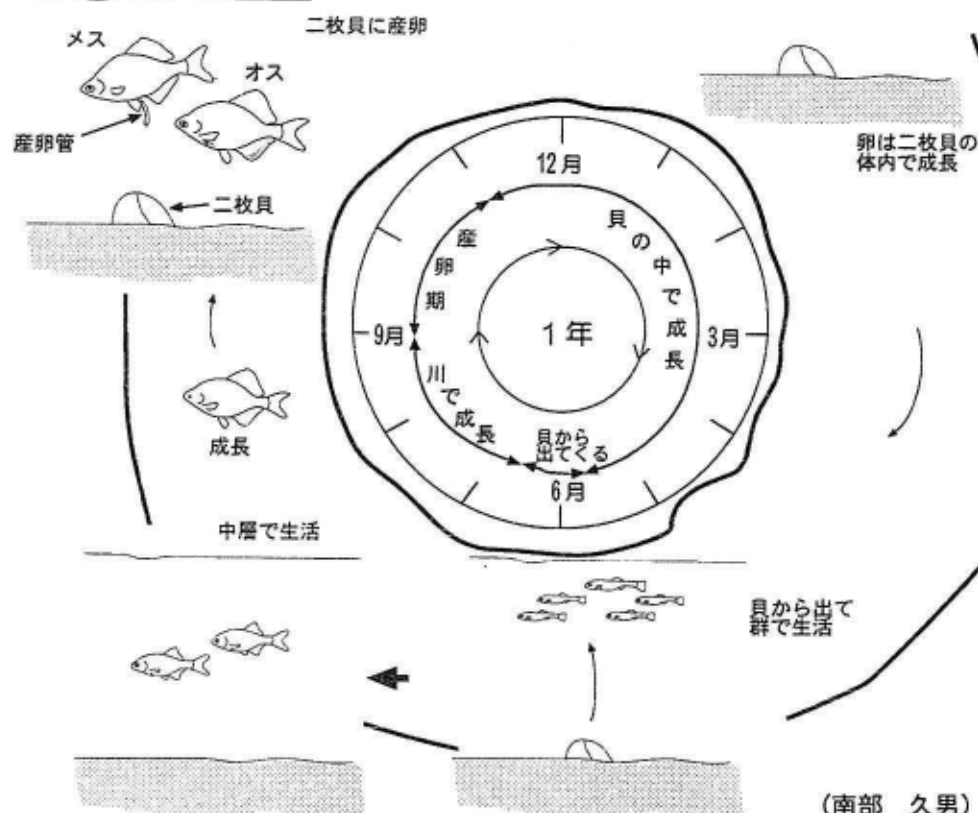
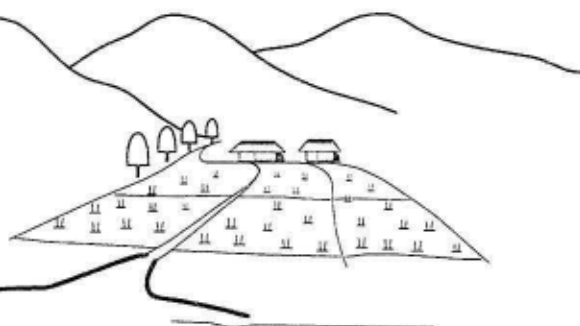
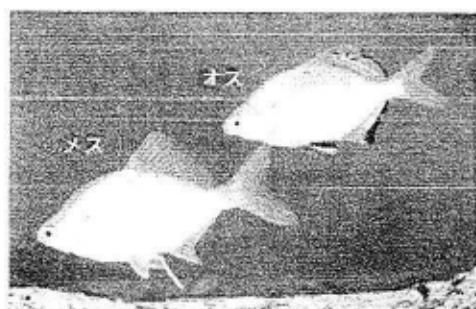
● 生活史

9～11月がイタセンパラの産卵期です。繁殖期のオスは、ヒレが黒く、体が赤
っぽくなります。メスは卵を産むためのくだ（産卵管）がのびてきます。産卵習
性は変わっていて、イシガイやドブガイのような二枚貝の体の中に卵を産み付け
ます。メスが二枚貝の出水管に産卵管を入れて卵を産み付けると、近くにいる
オスがすぐに水中に精子を出します。精子は貝の入水管から入ってきて、貝の
中で受精します。卵は貝の中で成長し、翌年の5月下旬～6月中旬には、成長し
たイタセンパラの稚魚が貝の中から出てきます。稚魚は、川のヨシが茂る水面近
くで数個体～数百個体の群で動物プランクトンを食べ生活します。9月頃には8
cmほどの大きさに成長し、繁殖期を迎えます。イタセンパラの寿命は1～2年と
考えられています。

● 絶滅が心配されるイタセンパラ

イタセンパラの生息場所は限られ、最近ではイタセンパラのいる仏生寺川でも
外来魚のブラックバスが生息していることが分かりました。ブラックバスは小魚
やエビなどを食べ、ブラックバスの胃の中からイタセンパラが見つかったことも
あります。イタセンパラの住む場所の環境が年々悪くなり、このままでは絶滅
が心配されるため、氷見市ではイタセンパラの増殖事業が始まっています。

せいかつし イタセンパラの生活史



(南部 久男)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成16年9月1日